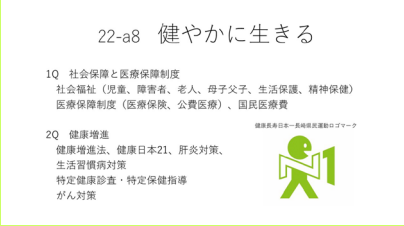


教養モジュール科目案内

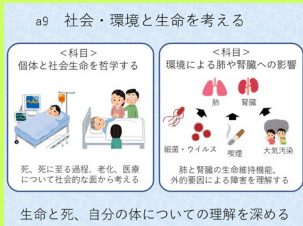
カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	22-a8 健やかに生きる		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	青柳 潔	責任部局	医学部医学科
趣 旨	公衆衛生的視点から、健康を考える。国民が相互に連帯して支え合い、国が必要な扶助を行うことにより、国民の生存権を保障するのが社会保障の概念である。医療保障とは、国民が傷病の際に必要な医療を効果的に受けられることを保証する制度である。わが国は国民皆保険制度である。健康増進は疾病の予防のみならず、健康状態を向上するための行動を含んだ積極的な概念である。		
学生の皆さんのメッセージ	臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対して、公衆衛生は集団の健康を対象とするものです。生活水準の保証、環境の改善、健康教育の推進の立場から、健やかに生きる方策を学んでいきましょう。	説明動画	

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
社会保障と医療保障制度	青柳 潔 有馬 和彦 水上 諭	国民が相互に連帯して支え合い、国が必要な扶助を行うことにより、国民の生存権を保障するのが社会保障の概念である。医療保障とは、国民が傷病の際に必要な医療を効果的に受けられることを保証する制度である。	社会保障、公的扶助、福祉、医療保険、
健康増進	青柳 潔 有馬 和彦 水上 諭	健康増進は疾病の予防のみならず、健康状態を向上するための行動を含んだ積極的な概念である。	健康日本 21、健康増進、生活習慣

教養モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点		
											A	B	
知識・技能		主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への	取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を
社会保障と医療保障制度	◎				○	◎		○		◎		○	
健康増進	◎				◎	○		◎		○			◎
◎（特に重視）の数	2	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	
○（重視）の数	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	1	0	

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

教養モジュール科目案内

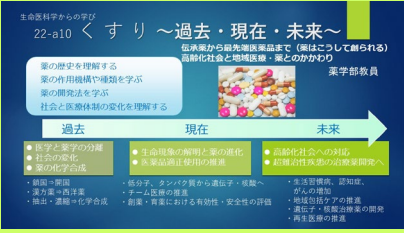
カテゴリー	生命医学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	22-a9 社会・環境と生命を考える		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	井上 信一	責任部局	医学部医学科
趣 旨	我々人間は、地球上に生命を宿しています。生命を維持するためには、他の生命体や無生物から構成される自然環境、さらに人々が構成する社会環境などの外部環境との関わりが必須です。本モジュールでは、人が生きていく上で重要な臓器や個体について、その機能や構造を理解し、自然環境や社会環境との関わりについて学びます。これら環境との長い関わりを経て、個人の生命体は少しずつ障害され、様々な異常を呈するようになり、やがて老化し、最後は死を迎えます。生命と死について考えると共に、皆さんが長く健康な生活を送るため、自分の体についての理解を深めることを目標にしています。		
学生の皆さんへのメッセージ	我々は生きています。そのことをどの程度考えて毎日を送っているのでしょうか？このモジュールでは、「生命」について考えます。生命の最小単位は「細胞」ですが、それらが構成する「臓器」そして「個体」の理解の上に、「自然環境」や「社会」との関わりをテーマにします。自分を知り、健康で豊かな生活を送るため、生命、体、病気、老化、医療そして死について考えてみましょう。講師は医学部のスタッフですが、一般の方が知っておくべき内容を中心に解説します。講義に加えてグループ学習などを通じ、健康問題について考えてみましょう。皆さんの今後の長い人生をより豊かで実りあるものとするため、生命について一緒に考えてみましょう。	説明動画	

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
個体と社会生命を哲学する	池松 和哉 村瀬 壮彦	人間はいつか死を迎えるが、その最期は様々です。死、死に至る過程、老化、医療について社会的な面から考えるための素材を各講師が講義します。学生にも発表形式での参加をしてもらうこともあります。	生と死・社会医学
環境による肺や腎臓への影響	迎 寛 西野 友哉 尾長谷 靖 牟田 久美子 井上 信一 竹本 真之輔 高園 貴弘 城戸 貴志	肺や腎臓は、人が生きる上で必須ですが、一方外界の影響を強く受ける臓器です。肺と腎臓は、どのように機能して生命を支えているのか理解を深めます。また肺は、喫煙、大気汚染、感染症、発がん物質などの外的要因で障害を受け、腎臓も食生活などの生活環境がその機能に大きく影響します。肺と腎臓について、どのような障害を生じどのように回避するかを学び、生きるとはどういうことか考えます。	環境 ニコチン依存症 がん 感染症 食生活

教養モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点		
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への	A	B
個体と社会生命を哲学する			◎		○	◎	◎	◎	◎	◎		◎	○
環境による肺や腎臓への影響	◎	○		◎	◎		○	◎	◎				○
◎（特に重視）の数	1	0	1	1	1	1	1	2	2	1		1	0
○（重視）の数	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0		0	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

教養モジュール科目案内

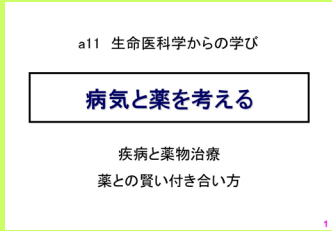
カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	22-a10 くすり～過去・現在・未来～		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・水産学部		
テーマ責任者	石原 淳	責任部局	薬学部
趣 旨	<p>“生命とは何か？”という問いに、明確な答えは無いかもしれませんが。しかし命ある地球上の多様な生物は、化学物質で構成され、すべての細胞や組織では、複雑な化学反応系によって、高次の生命活動が営まれ、統御されていることは、明確です。薬は、これらの生命活動に直接関与することによって生体内の化学構造や機能の異常を改善するために用いられてきました。また、一方で、期待されない障害を与えたことも事実であり、それもまた薬の本質ともいえます。これまでの人類の病気との戦いの中で、発見された薬の歴史も振り返りながら、生命現象と薬のかかわりを学習することにより、生命とは何かを科学的に思考したいと思えます。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>人類が、薬を見出し、使用してきた歴史は古く、薬と共に歩んできた長い道のりは文化史の一部とも言えます。本科目では、どのような薬を飲めば病気が治るのか、どのように使われるのか、といった実用上の知識を得ることを目標にしているのではありません。薬が生体にどのように作用し、病気を治癒することができるのか、どのようにして開発されてきたのか、を正しく理解するためには、化学物質である薬、生体のしくみ、病気の原因などの基本的な知識が必要です。本科目では、これらの知識をわかりやすく、そして正しく理解できるように工夫します。また、その知識をもとに、薬を科学的かつ歴史的側面からも見つけ、学習します。薬というキーワードで、生命現象を共に考察してみませんか。</p>	説明動画	

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)	石原 淳 福田 隼 小嶺 敬太	人類の病気との戦いの歴史は、医薬品創成の歴史でもある。経験的に見いだされた伝承薬や天然物から発見された医薬品、コンピュータによってデザインされた医薬品など、医薬品はどのように合成し供給されるのか。化学が医薬品開発に果たしてきた役割を学ぶ。	医薬品 化学合成 天然物
高齢化社会と地域医療・薬とのかかわり	向井 英史 鳥羽 陽 安孫子 ユミ	長崎県は高齢化社会の先進地区であり、将来の日本の重要な医療モデルである。出島に近代西洋科学が導入されたくすりの歴史から、現在の高齢化社会の疾病とくすりの使われ方まで、医療経済を含めて、長崎県を起点として高齢化社会におけるくすりとの付き合い方を学ぶ。	くすり、高齢者、医療、 医療経済、長崎県

教養モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えをやり取りする力	⑩ 関心 国際・地域社会への	※授業編成の視点	
											A 取り扱う	B 取り扱う
伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)	○	◎		◎	○	○		◎	◎			
高齢化社会と地域医療・薬とのかかわり	○	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	○
◎(特に重視)の数	0	2	0	1	0	0	0	2	2	1	0	0
○(重視)の数	2	0	1	1	2	2	1	0	0	0	1	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	22-a11 病気と薬を考える		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・水産学部		
テーマ責任者	西田 孝洋	責任部局	薬学部
趣 旨	<p>これまで人類はさまざまな病気を克服してきましたが、癌など未だに治療困難な病気、新しい感染症、メタボリックシンドロームなど、私たちが向き合わなくてはならない病気はまだたくさんあります。そのような病気との闘いで最も重要な役割を担い続けているのが「薬」です。しかし、多くの薬は使用方法を誤れば毒であり、薬の有効性と安全性を理解して適正に使用することが非常に重要です。本テーマでは、医療現場でのさまざまな疾患に対する薬物治療と、薬が体の中でどのように働いているのかについて学びます。また、薬の開発の歴史や健康食品についても科学的に考えます。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>最近の法律改正で、薬を適正に使用しその有効性と安全性の理解に努めることが国民の義務として定められました。薬局やインターネットで欲しい薬がいつでも手に入るようになり、薬の安易な使用で副作用のリスクが増えたことが背景にあります。また、最先端の薬により多くの病気が治療できるようになった半面、作用の強さは副作用のリスクを伴うことを理解することが求められています。本テーマでは、この病気はどのような薬を飲めば治るのかといった実用上の知識を得ることを目標にしているわけではありません。実際の薬物治療がどのような考えのもとで行われているのか、薬が生体にどのように作用して病気を治すのか、薬の開発のもととなった薬草や毒草、そして健康食品について学ぶことで、薬の恩恵とリスクについて自分で考えられるようになることを目指します。</p>	説明動画	
			

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
疾病と薬物治療	中嶋 幹郎 黒崎 友亮 相原 希美	癌、循環器疾患、消化器疾患、精神神経疾患、自己免疫疾患、ウイルス感染症などの様々の疾患に対する薬物治療法の中から、いくつかの代表例について学ぶ。また、病気との向き合い方や病気に影響する遺伝・生活因子などについても学ぶ。	様々な疾患・治療法・環境因子・遺伝因子
薬との賢い付き合い方	西田 孝洋 麓 伸太郎 宮元 敬天	薬の効くしくみや体内での動きを理解すること、また、医薬品の影の部分（副作用）を知ることは、一消費者として薬と賢くつきあうためばかりでなく、生体の機能を知り、生命現象の理解を深めることにもつながる。この科目では、いくつかの薬（習慣性薬や癌治療薬など）を例に取り、薬と賢く付き合うために、生命科学分野以外にも医薬経済学、薬事、薬史学、医薬倫理学といった、社会科学的、人文科学的分野についても学ぶ。	薬理作用、体内動態、副作用、癌、生活習慣病、麻薬、向精神薬

教養モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応											※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への	取り扱う 人文科学の内容を
疾病と薬物治療	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	○			○
薬との賢い付き合い方	○	◎	○	○	○	◎	○	◎	◎	○	○	○
◎（特に重視）の数	1	2	1	0	0	2	0	1	1	0	0	0
○（重視）の数	1	0	1	2	2	0	2	1	1	1	1	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目